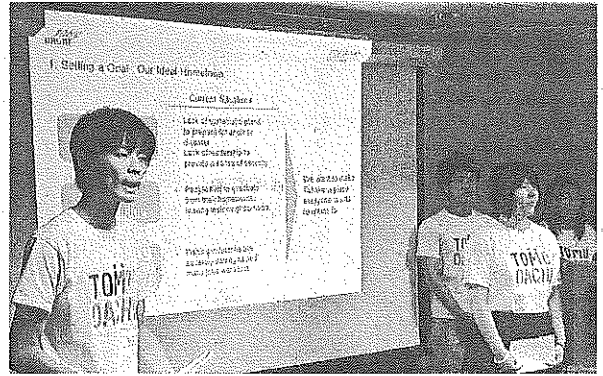


テロ遺族らと被災学生交流 米ワシントンで成果発表

【ワシントン＝中山真】東日本大震災で被災した東北3県の大学生らが訪米し、米同時テロや大型



東日本大震災で被災した東北3県の学生らが米ワシントンで開いた報告会(20日) 共同

ハリケーン「カトリーナ」で家族を亡くした遺族らと交流した成果を発表する会合が20日、ワシントン市内であった。

津波で両親、祖父母、姉を亡くした右手出身の小川彩加さん(18)は「今回の交流で初めて災害の被害者を客観的に見ることができた。あの日がないとすれば今の自分がないと実感した」などと話した。

訪米した10人はニューヨークの米同時テロ跡地やカトリーナが襲ったニューオーリンズなどを訪問。約2週間の滞在中、被災地復興の現場を見学したり、最新の災害対策の取り組みを学んだりした。

成果発表では東北各地を移動するビクターセーターの設立などを提言し「わたしたち東北の若者が復興の主役とならなければならぬ」などと宣言した。